

桒田 和美 議員

(一問一答方式)

- ①市民の健康支援について
- ②防災・減災対策について



**ヒアリングフレイル(聴覚機能の衰え)の
予防について**

問 加齢に伴って耳が聞こえづらくなる加齢性難聴は、放置すれば意思疎通が難しくなり、コミュニケーションの機会が減ることにより、社会的孤立に繋がるリスクが高まるとされているが、本市での聴覚機能低下の早期発見に対する取組を伺いたい。

答 令和6年度に開催した55歳以上が対象の健康の学びの場である元気シニアサポーター養成講座では、聞き取り能力に係るセルフチェックリストを配布し、早期発見の必要性について周知したところです。

しかし、現時点においては、講座受講者のみへの周知にとどまり、市民の皆様へ情報が行き届いていませんので、今後は市のホームページや広報紙を活用するとともに、元気シニアサポーター養成講座をはじめとした各種講座、介護予防サークルやサロンへの出前講座等で、早期発見・早期受診の必要性について周知していきたいと考えています。

認知症高齢者への支援について

問 認知症カフェの目的は、情緒的なサポートが提供されることで、地域社会からの孤立を防ぎ、認知症の方と介護者の方の心理的負担の軽減に寄与するものである。本市での認知症カフェの推進状況について伺いたい。

答 本市では、認知症の家族の方を対象に、総合福祉センター内の会議室で実施してきた保護者の会を見直すこととし、認知症の方やその家族、地域の方も対象に含め、誰もがリラックスした雰囲気、喫茶店を訪れるような感覚で気軽に参加でき、また地域とのつながりも図れるような、認知症カフェへの移行を進めています。

昨年度は、NPO法人が運営するカフェを借り、

試行的に認知症カフェを2回開催しましたが、参加されたご家族からは、気分転換ができた、いつもより気楽に話せたと好評でした。

現在2か所目の認知症カフェの設置に向け準備を進めていますが、今後はこの認知症カフェについてチラシを作成し、介護事業所など関係機関へ配布するとともに、広報紙においても周知を図り、認知症の方や地域の方の参加にもつなげていきたいと考えています。

資機材や備蓄物資の整備活用について

問 国の交付金を活用し、大型のトイレカーが整備されることになっている。多目的トイレも設置されており、車いすでの利用もできるようになっているが、平時においてもイベント等で有効活用できると考えるが、貸し出し計画などはあるのか伺いたい。

答 トイレカーについては、昨年度男女各1室の洋式トイレを装備した軽自動車を購入し、今年度男女各2室の洋式トイレに加え、車椅子昇降用のリフトを装備した多目的トイレのある大型トイレカーを整備することとしています。このトイレカーの活用は、災害時において断水等によりトイレの使用ができなくなった避難所への配置や他県等で発生した大規模災害時において、要請に応じて派遣することを想定しています。

本車両については、災害時の避難所での環境改善に役立つだけでなく、平時における有効活用も検討する必要があり、市内で開催される出初式やスポーツ大会などをはじめ、各地区で行う防災訓練、研修等でも使用し、避難所生活のイメージを地域の皆さんで共有し、災害に備える意識が向上してもらえるよう周知を図っていくとともに、防災センターに配備し、防災研修や小学生の遠足などにおいて見学してもらえるようにします。

なお、昨年度購入した軽自動車タイプのトイレカーについては、今年4月にフラワーパークおおずで来客者用として活用したほか、5月には大洲東中学校の学校行事でも貸し出し、活用されています。